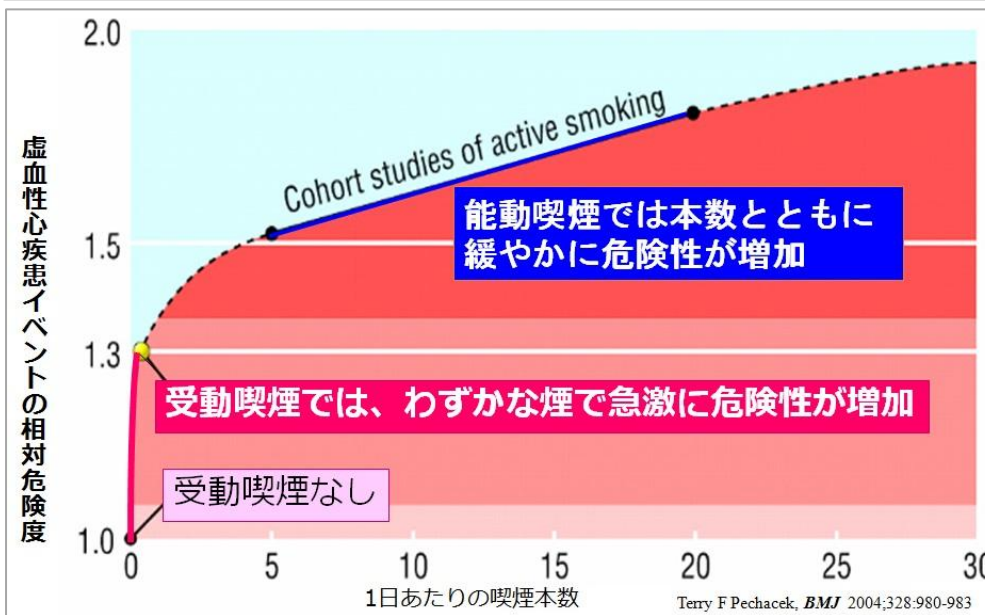


# 週刊 タバコの正体

他人のタバコの煙を吸わされる事を受動喫煙と呼ぶことは知っていますよね。近くでタバコに火をつけられると喫煙習慣がない人でもタバコの煙を吸い込んでしまいます。タバコ本体を口にくわえて吸い込むのに比べれば受動喫煙の煙の量は少ないのですが、だからといってその被害を軽視してはいけません。

受動喫煙を受ける場所	疾患	受動喫煙起因年間死亡数	
		男性	女性
家庭	肺がん	201人	1,131人
	虚血性心疾患	206人	1,640人
職場	肺がん	448人	340人
	虚血性心疾患	1,366人	1,471人
小計		2,221人	4,582人
合計		6,803人	

方法: 日本の人口動態統計(2008年)などのデータを用いて、  
受動喫煙に起因する肺がんおよび虚血性心疾患による年間死亡数を推計  
独立行政法人国立がん研究センター「喫煙と健康」WHO指定研究協力センター:  
受動喫煙による死亡数の推計について(解説): 2010 [L20110523024]より作図



こうしたデータを見れば、受動喫煙をあなどってはいけない事がわかりますが、世間一般の風潮にはそんな危険性があらわれていません。つまり、多くの人がこうした受動喫煙の危険性を知らないと言えるのです。これが、現在の日本が受動喫煙に寛容な世の中になっている原因の一つだと思われます。

喫煙者が減少しているなか、公的な施設の多くは禁煙が当たりまえとなってきましたが、小規模な施設や近隣の人たちが日常的に利用する場所などでは喫煙が容認されていたり、喫煙場所があってもそこからタバコの煙がもれているケースが多く見受けられます。

皆さんには、受動喫煙の危険性をちゃんと知ってもらい、タバコの煙がない環境を作ることを意識してもらいたいと思っています。

ません。

左上の表を見てください。国立がん研究センターの資料によると、毎年受動喫煙が原因で亡くなる人は6803人だと試算されています。

さらに“肺がん”より“虚血性心疾患”の方が多くなっていることがわかります。“虚血性心疾患”とは狭心症や心筋梗塞などの心臓の血管に異常をきたす病気の総称です。

さて、その“虚血性心疾患”は、左のグラフにあるように、わずかな煙でも危険性が増すという研究結果があります。